

## 九州海外協力協会だより



特定非営利活動法人  
九州海外協力協会

2022年・春号

## 弓場秋信理事長挨拶



最近、日本経済新聞の紙面には、企業決算予測「増益」の文字が踊り、上場企業純利益最高に、と報道されている。コロナ禍の中で航空各社が軒並み赤字となるなか中、大韓航空が最高利益達成。俄かに信じがたく紙面に目を止めると、旅客機の座席を取り除き貨物機に転用。また大手食品メーカーの味の素が、「半導体」を成長の種に。

当会の主な事業は、①研修員交流プログラム、②青年研修事業、③JICA九州訪問者案内、④国際協力出前講座、⑤JICA国際協力エッセイコンテスト、⑥開発途上国との交流他である。コロナ感染拡大により、海外からの入国制限や国内での人流制限などにより多くの活動が縮小或いは中止せざるを得ない状況である。

予期せぬ環境の変化・変動をどう受け止め、それに向かってどう努力・行動したか、その結果がいま世界や日本で起こっている二極化では。ダーウィンが言う適者生存は、強くて大きいものだけが生き残るのではない、それは環境の変化への適応力である。

冷泉公園前の  
JOCA九州事務所



## 馬田英樹前事務局長 in JICAボツ

こんにちは。JICAボツワナ支所、企画調査員（ボランティア事業）の馬田英樹です。NPO九州在職中は大変お世話になりました。昨年7月にボツワナの首都ハボロネで3度目のアフリカ勤務をスタートしてから早くも7月が過ぎました。9月からは配偶者と次女が合流し、当地で一緒に生活しております。

さて、ボツワナは世界有数のダイヤモンドの生産地であり、莫大なダイヤモンドマネーのおかげで、一人当たりのGDPは南部アフリカ地域ではトップです。しかし、国家財政を大きくダイヤモンドに依存したモノカルチャー経済にはボツワナ政府も危機感を抱いており、産業の多角化へ向けた支援が求められています。

協力隊については、新型コロナのパンデミックにより、約2年間見送られてきた派遣がようやく今年の2月から再開されました。また、今年はボツワナの協力隊派遣が始まってから30周年の記念すべき年です。コロナ禍で様々な制限はありますが、国内外のボツワナ協力隊関係者の皆さんと共に、30周年の記念行事を盛り上げて、さらに本事業を前進させていきたいと考えています。引き続き皆様からご指導ご鞭撻頂ければ幸いです。



## KAPIC 活動報告 兒島 盛之所長 ～鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター～

2019年末から始まった新型コロナウイルスは、2年以上もの間、猛威をふるい続けています。その間、カピックでは外国からの研修生の姿はみられず、外国人に対する日本語・日本文化研修は実施されていません。国際協力や国際交流を標榜している当センターにとって、海外との門が閉ざされていることは死活問題であると言えます。ピンチをチャンスに変えるという訳ではありませんが、現在は地域の小中高生と海外学生を結ぶオンライン交流や、JICAの技術研修をオンラインで実施する機会が増えています。このインターネットを利用した交流や研修は当センターにとっては新たな分野ですが、時流に乗ることも必要であり、その長所・利点を活かして事業を発展させたいと思います。また、地域のニーズに応えるという意味では、小中学生対象の英語イベントの実施、SDGsの理解促進のための国際理解プログラムの実施や館内展示物のリニューアルを行っています。

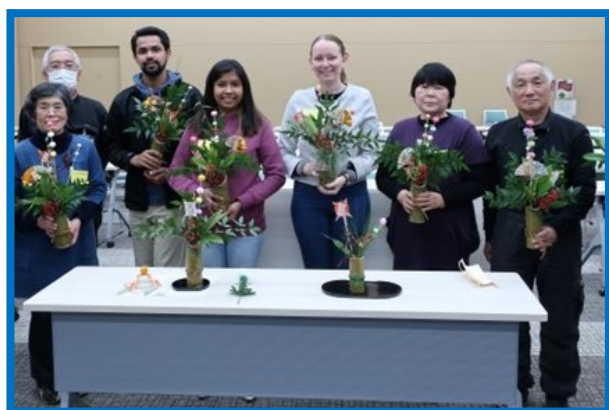


## 鹿児島県国際交流センター 運営報告 令和3年度運営報告 桑山 昌洋所長

令和2年4月にオープンした鹿児島県国際交流センターの運営も早くも二年が過ぎようとしています。昨年度に引き続き令和3年度も、新型コロナウイルスの影響で新規の留学生の入国はほとんど停止しているため、現在すでに国内にいる留学生へターゲットを拡大し広報を行うとともに、施設の充実

と生活環境の改善を行い施設の魅力を高める事に注力しています。その結果、現在8か国（ブラジル、マレーシア、インドネシア、中国、キルギス、タンザニア、ベトナム、スリランカ）からの留学生と日本人学生が暮らしており、様々な文化の交わるまさにクロスロードとなっています。来年度は留学生への入国規制が解け入居者がさらに増えることを期待したいと思います。

鹿児島県国際交流センターの設置目的である“留学生と県民との交流を通して、国際社会に貢献する人材の育成と国際相互理解の促進を図る”ために以下のような事業を行っています。



写真左 七夕飾りや正月飾りなどを地域の住民と留学生が共に作る、地域住民との交流事業  
写真右 一般市民に向けて、留学生が出身国を紹介する講演会・イベント事業



## 退職のご挨拶

2019年の新型コロナウイルスの感染拡大から直接お会いする機会もなくなり、大変ご無沙汰しております。3月末をもって、九州海外協力協会を退職いたします。協会では、カンボジアの教育プロジェクトを始め、さまざまな業務を経験いたしました。業務を通じてたくさんの方々にお世話になりましたこと、改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

この9年間の経験を次のステージでも活かしていきたいと思えます！また、世界のどこかでお会いできる日を楽しみにしております。

はしぐち えりこ  
橋口 恵理子



2014年4月から8年間、大変お世話になりました。開発教育の現場では、生徒や先生とともにより良い世界について考える時間は本当に楽しく、また充実した時間でもありました。国際協力プロジェクトの案件担当をさせていただいた際には、今まで知らなかった専門分野のこと、国際協力のことについて学ばせていただきました。たくさんの学びの機会を頂戴し感謝しかありません。同僚にも恵まれた8年間でした。良い仲間と共に仕事が出来たこと、苦楽を共にしたことは人生の宝になると思います。これからももっと社会に貢献できるよう、自分を磨いていければと思います。8年間本当にありがとうございました！

約2年間、大変お世話になりました。私がNPO九州で過ごした2年間は世の中のコロナ禍と重なり、特別な時期であったと思います。思っていた業務ができないもどかしさもありましたが、その分予期していなかった様々なことを経験させていただくことになり、スキルアップをさせていただけたと感じております。今後は2年間で得た学びや出会えた方々とのつながりを大切にしながら、新しい環境に飛び込んでいきたいと思っております。

2年間誠にありがとうございました。新型コロナウイルス感染症の影響で落ち着かない日々がまだまだ続くかと思いますが、皆様のご健康とご多幸をお祈りしております。

よねむら じゅんぺい  
米村 純平



初めに、皆様にご挨拶できる機会が設けられず2022年春号でのお知らせになってしまったことをお詫びします。2021年9月30日をもって、私は退職いたしました。現在は個人事業主として、ラグビーチームの通訳を主に活動しています。2012年から9年間勤務させていただき、本当にたくさんの経験をさせていただきました。カンボジア草の根事業や、JICA青年研修事業、ラグビー・スポーツ事業等から、たくさんの学びを得ることができました。NPO九州に何が残せたのだろうと今も考えます。いつまでもファミリーとしてお付き合いしていけたらと思っております。皆様、これまで本当にありがとうございました。そしてこれからも九州海外協力協会をよろしく願いいたします。

かわの なつこ  
河野 菜津子



うらこし みき  
浦越 未来



## 事務局長丸田より

27歳で中米ホンジュラスへ、その後ニカラグア、ドミニカ共和国、グアテマラ等在外で13年、国内で23年の間JICA海外協力隊事業に関わって参りました。当時の日本社会に疑問を感じ中米に飛び出し36年経った今、このかけがえのない日本が大好きになりました。私の弟も元シリア隊員、長女は元パラグアイ隊員、妻や長男も含め全員がスペイン語を話す家族に。

当時の青年海外協力隊に参加した事で、人生が大きく開かれたとこの事業の素晴らしさを実感しています。これまでのすべての経験を生かして、当会独自の地域創生事業をスタートさせる予定です。ご期待ください。



特定非営利活動法人 九州海外協力協会  
〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503  
TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304  
E-mail: ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp



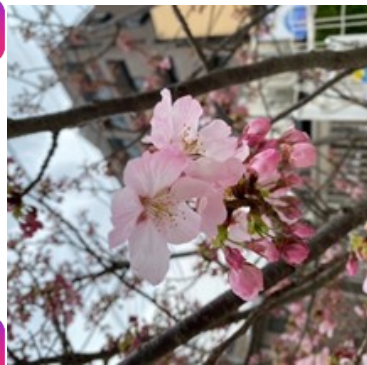
料金後納  
郵便

### (特活)九州海外協力協会 ☆会員募集中☆

当協会では、活動にご賛同いただける団体・個人の皆様に募集しております。会員の方には四半期毎に発行しております「九州海外協力協会だより(本紙)」をお送りさせていただいているほか、当協会主催・共催のイベント情報などをご案内しております。ご関心のある方は、以下へお問い合わせ下さい!



インスタ的な



新しい季節の始まり。  
#サクラ #咲き始め #出会いと別れの季節

発行: 特定非営利活動法人 九州海外協力協会  
〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503  
TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304  
HP: <http://www.npo-kyushu.or.jp/> E-mail: [ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp](mailto:ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp)

